

「ideaflow」—知財×AI が切り拓く未来のアイデア共創プラットフォーム



Genspark

Apr 14, 2025

情報

ブックマーク

共有

インスピレーションと洞察から生成されました [5 ソースから](#)

「ideaflow」—知財×AI によるアイデア共創プラットフォームの調査報告

1. 概要

「ideaflow（アイデアフロー）」は、株式会社知財図鑑が提供する知財×AI を活用したアイデア共創プラットフォームです。このサービスは公開されている特許情報を生成 AI で分析し、その技術を活用した事業アイデアを瞬時に大量に作成することで、企業の新規事業開発や商品・サービス開発プロセスを加速させることを目的としています知財図鑑 [1](#)。

知財図鑑は「知財と事業をマッチングさせるクリエイティブ・メディア」として、世界を進化させる知財をクリエイターの視点で再解釈し、未来の可能性を提案するというビジョンを持っています。「ideaflow」はそのビジョンを実現するための中核的プラットフォームとして位置づけられています PR TIMES [2](#)。

同サービスは 2024 年 6 月にベータ版が発表され、特許を保有する企業や大学を対象に提供が開始されました。その後、2025 年 2 月 27 日に一般向け製品版がリリースされ、無料プランを含めた幅広いユーザー層への提供が始まっています PR TIMES [3](#)。

2. 主な機能

「ideaflow」は知財情報を活用して新規事業開発を支援するための様々な機能を備えています：

1) 特許の要約機能

公開されている特許番号から、ChatGPT をはじめとした生成 AI が瞬時に特許の内容を要約します。専門的で難解な特許情報をわかりやすく翻訳することで、AI と人間が共創して事業アイデアを作成する土台を構築します PR TIMES [2](#)。

2) 事業アイデアの生成機能

特許情報と、ビジネスを検討したい産業分野を指定することで、AI が未来の事業アイデアを複数作成します。この過程で、飛躍的なアイデアから現実的なアイデアまで幅広い方向性を示すことができるため、ユーザーの期待値に沿ったアイデア創出が可能になります PR TIMES²。

3) アイデア評価・可視化機能

生成された事業アイデアは「価値・ターゲット・長所・短所・リスク」など多角的な観点で記載され、新規性・市場性・実現可能性について AI が自己評価を行います。さらに、利用シーンを描いたビジュアルも同時に生成され、アイデアを具現化する際のイメージが直感的に伝わるようになっています PR TIMES²。

4) チーム共有・コミュニケーション機能

作成したアイデアは、チームメンバーと共有することが可能です。これにより、部門や職種を超えたアイデアの交流が生まれ、多様な視点からのフィードバックやブラッシュアップが促進されます知財図鑑 ¹。

5) AI エージェント対話機能

2025 年の CES 展示会で紹介された新機能として、作成した事業アイデアに対し、AI エージェントにチャットボット感覚で疑問点や展開アイデアを相談できる機能が追加されています。アイデアのリスク分析や活用シーンのブレスト、コラボパートナーの提案や検証プロセスのアドバイスなど、自然言語でのやり取りを通じて高度なアシストを得られます PR TIMES⁴。

6) 多言語対応

これまでの日本語機能に加え、英語への切り替えにも対応しています。これにより、グローバル企業や海外拠点のチームメンバーとの共同開発がスムーズに行え、1 つのチーム内で日英両言語でのアイデア創出が可能です PR TIMES⁴。

3. 料金プラン

「ideaflow」は複数の料金プランを提供しており、企業規模やニーズに応じた選択が可能です：

1) Free プラン（無料）

- 事業アイデアを探索したい個人向け
- 月 10 件（年間 120 件）のアイデア作成が可能
- 作成したアイデアはトップページに公開される
- アカウント登録のみで利用可能 PR TIMES³

2) Pro プラン

- 事業アイデアをより詳細に見つけたい法人向け
- 月額 41,500 円（年払いの場合はさらに割引）
- 7 日間の無料トライアル付き
- 非公開のチーム内での共有や詳細な分析が可能 idea-flow.ai⁵

3) Enterprise プラン

- 戦略的に事業アイデアを探索したい大企業向け

- カスタマイズ対応の法人向けプラン
- 価格は個別相談
- より高度な分析やサポートが付属 [idea-flow.ai](#)⁵

年払いプランを選択することで、より割安な料金設定となっています。また、無料プランで作成したアイデアは全て公開され、知財とアイデアのマッチングを促進するエコシステムの一部として活用されます [PR TIMES](#)³。

4. 導入事例

「ideaflow」は2024年6月のベータ版発表以降、500を超える企業の新規事業部門や知財部門からの問い合わせがあり、様々な領域での活用が進んでいます。公表されている主な導入事例は以下の通りです：

企業導入例

- 株式会社カプコン：ゲーム開発企業
- 貝印株式会社：刃物・調理器具メーカー
- アズビル株式会社：計測制御機器メーカー
- 東洋製罐グループホールディングス株式会社：包装容器製造企業 [PR TIMES](#)³

公共機関・教育機関での活用

- 特許庁（I-OPEN プロジェクト）× 宮城県（テクスタ宮城）：地域イノベーション促進
- 石川県 × 石川県発明協会：地域特許活用
- 早稲田大学：研究成果の事業化検討
- 神奈川大学：学術研究と産業連携 [PR TIMES](#)³

特別プロジェクト

- 大阪・関西万博：住友グループ各社の700件を超える最先端技術や取り組みをデータベース化し、「ideaflow」の技術を活用して未来のアイデアを創出する「ミライのタネ」プロジェクトへの技術提供 [PR TIMES](#)³

これらの導入事例からは、製造業、ゲーム業界、スタートアップ、コンサルティングファームなど、多様な業種での活用が進んでいることが分かります。また、産学官連携の取り組みも積極的に行われています [PR TIMES](#)⁴。

5. 今後の展望

株式会社知財図鑑は「ideaflow」の今後について、以下のような展望を示しています：

1) サービス提供範囲の拡大

- 2025年2月に個人ユーザー向け無料版が正式リリースされ、アクセシビリティの向上が図られています
- 今後はさらに多くのビジネスパーソンに活用してもらうことで、新規事業創出の促進を目指しています [PR TIMES](#)⁴

2) AI エージェント対話機能の強化

- AI エージェントとの対話機能をさらに発展させ、アイデアの具体化や実効性の向上を目指します
- 将来的には「戦略コンサルタントとの壁打ち」や「SF 作家とブレスト」といった体験を実現する独自の対話エージェントの実装が計画されています [知財図鑑 1](#)

3) グローバル展開の強化

- 2025 年 1 月にラスベガスで開催された CES 2025 に出展し、グローバル企業や行政機関、投資家に向けて日本発の知財×AI ソリューションをアピール
- 今後の事業提携や開発パートナー獲得に注力する予定 [PR TIMES4](#)

4) 外部コラボレーションの拡大

- ideaflow の機能を拡張させ、より多くの知財をエンパワーするために多様なコラボレーターを募集
- 戦略コンサルタント、デザインファーム、技術開発パートナー、各種エンジニア、ビジネスデベロップメント、海外進出プロデュースなど [PR TIMES3](#)

5) オープンイノベーションエコシステムの構築

- 「失われた 30 年」の間に生まれた休眠特許の掘り起こしや既存特許の技術移転によって、オープンイノベーションを連鎖的に促進
- 知財という先端技術を AI の力でわかりやすく翻訳し、メディアを通じて発信することで、知られていなかった技術に誰もがアクセスできる環境の構築を目指す [知財図鑑 1](#)

6. 企業の新規事業支援・商品開発支援における意義

「ideaflow」は、企業の新規事業支援や商品・サービス開発において以下のような意義を持っています：

1) アイデア創出の高速化と多様化

- 生成 AI を活用することで、通常のブレインストーミングでは生み出せないような量と多様性のアイデアを短時間で創出
- 羞恥心なく、人とは異なる価値観のアイデアをアウトプットすることで、新たな視点を提供 [PR TIMES2](#)

2) 知財活用の民主化と知識共有

- 特許情報をわかりやすく翻訳することで、研究者や知財担当者以外のビジネスパーソンも活用可能に
- 部門を超えた知識共有とアイデア交流を促進し、組織のサイロ化を防止 [知財図鑑 1](#)

3) PDCA サイクルの短縮

- アイデア創出から評価、可視化までを瞬時に行うことで、新規事業開発の PDCA サイクルを大幅に短縮
- 早期に多様なアイデアを検討することで、有望な方向性を素早く見極め、リソース配分を

最適化 PR TIMES²

4) オープンイノベーションの促進

- 企業内に眠る知財の新たな活用可能性を発見し、本業以外での展開機会を創出
- 外部の知財情報を参照することで、自社にない技術との融合による新規事業開発を支援
知財図鑑 ¹

5) グローバル展開の加速

- 多言語対応により、グローバルチームでの協業や、国際市場を見据えた事業開発を支援
- 世界中の特許情報を参照することで、国際的な技術動向を踏まえた戦略立案が可能に PR TIMES⁴

7. 総括

「ideaflow」は、知財情報と AI 技術を融合させることで、企業の新規事業開発や商品・サービス開発プロセスに変革をもたらす可能性を秘めたプラットフォームです。特に、アイデア創出の初期段階におけるハードルを下げ、量と質の両面から事業アイデアを迅速に生成・評価できる点は、イノベーションの促進に大きく貢献すると考えられます。

無料プランからエンタープライズプランまでの幅広い料金体系は、スタートアップから大企業まで様々な規模の組織にアクセスを提供し、日本全体のイノベーションエコシステムの活性化を目指す姿勢が見られます。

今後は、AI エージェントとの対話機能の強化やグローバル展開の推進、多様なコラボレーターとの連携により、さらに高度で実用的な機能の追加が期待されます。特に、「戦略コンサルタントとの壁打ち」や「SF 作家とのブレスト」といった専門家との対話を模した AI エージェントの実装は、アイデア発想の質を高める可能性があります。

また、「失われた 30 年」の間に生まれた休眠特許の掘り起こしや既存特許の技術移転による新たなオープンイノベーションの創出は、日本の産業競争力強化につながる重要な取り組みといえるでしょう。

「ideaflow」は単なるアイデア生成ツールを超えて、企業の知財戦略と事業開発を結びつける重要な架け橋となる可能性を秘めています。今後の発展と、それによる日本企業の新規事業創出への貢献に注目していく価値があります。

Appendix: Supplementary Video Resources



【ideaflow】β 版サービス概要

Jun 30, 2024



About "ideaflow"

1 week ago

もっと詳しく

1
chizaizukan.com

2
prtimes.jp

3
prtimes.jp

4
prtimes.jp

5

www.idea-flow.ai